

取組実績の概要（2 ページ以内）

- 1) (a) 初年次導入教育、(b) インターンシップ前教育、(c) インターンシップ教育の3つに系統立てたアクティブ・ラーニング教育プログラムを起点に、アクティブ・ラーニング授業を行う教員の教育スキルの向上にFD・SDを活用して取り組んだ結果、教育方法および学生評価（ルーブリック評価など）に関する教員の教育力が向上し、アクティブ・ラーニング授業の実施率や学生の授業満足度など全ての指標において、平成26年度からの上昇を達成できた。
- 2) 学習成果の可視化では、学修成果アセスメントテストや学修行動調査（IR調査）、学修支援ポートフォリオ、ルーブリック評価の推進を核に教育改革を進め、学務・FD委員会や教育支援・教学IR委員会を中心に実施状況を分析し、改善を積み重ねてきた。これらの成果は、授業満足度の上昇および、各種調査の参加率の上昇、授業外学修時間の増加の達成から、適切な取組であったと評価できる。学生は自身の学修成果を的確に把握して自己評価が促進され、加えて教員からの助言を適宜受けることで、目標を明確に持つことができ、学修意欲の向上につなげることができた。
- 3) 本事業の取組について、年に2回外部評価委員会並びに自己点検・評価委員会による適切な点検・評価を受けることで、個々の教育プログラムや学修成果の可視化の方法を改善することができ、多くの指標で目標達成を図ることができた。

【必須指標の達成度】※AL：アクティブ・ラーニングの略

必須指標	平成26年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
1.AL(※)を導入した授業科目数の割合	71.4% (80/112)	80.4% (90/112)	82.1% (92/112)
2.AL(※)科目のうち、必修科目数の割合	92.5% (74/80)	93.3% (84/90)	97.83% (90/92)
3.ALを(※)受講する学生の割合	100% (344/344)	100% (360/360)	100% (211/211)
4.学生1人当たりのAL(※)科目受講数	13.5 科目	18.0 科目 (90/5)	18.4 科目 (92/5)
5.AL(※)を行う専任教員数	100% (20/20)	100% (20/20)	100% (18/18)
6.学生1人当たりのAL(※)科目に関する授業外学修時間	—	7.0 時間	5.6 時間
7.退学率	4.4% (15/344)	2.2% (8/360)	4.7% (10/211)
8.プレースメントテストの実施率	80.5% (103/128)	100% (120/120)	100% (62/62)
9.授業満足度アンケートを実施している学生の割合	97.6% (328/336)	95% (342/360)	97.1% (200/206)
10.授業満足度アンケートにおける授業満足率	64.3%	95%	73.5%
11.学修行動調査の実施率	97.6% (328/336)	95% (342/360)	97.1% (200/206)
12.学修到達度調査の実施率	36.6% (126/344)	100% (360/360)	97.2% (205/211)

(テーマ：I・II複合型、大学等名：福岡医療短期大学)

13.学生の授業外学修時間	2.3 時間	14.0 時間	29.92 時間
14.学生の主な就職先への調査	—	有	有

- ・アクティブ・ラーニングに関連する達成目標について、上記指標 1、2、3 は事業開始当初の H26 年度から、それぞれ 82.1% (11.3%増)、97.7% (5.2%増)、100% (維持) と高い上昇率を示し、教育改革が推進されている。
- ・学生 1 人当たりのアクティブ・ラーニング科目受講数 (指標 4) は目標値を上回り、アクティブ・ラーニングを行う専任教員数 (指標 5) は事業開始当初の平成 26 年度から 100%を維持している。
- ・学生 1 人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間 (1 週間あたり) (指標 6) は、5.6 時間と前年度より上昇しているが、目標値にはわずかに及ばなかった。教員の教育能力の向上を含めて、学生への動機付けを行う仕組みをさらに構築していきたい。
- ・退学率 (指標 7) は目標値に及ばなかった。退学理由としては、経済的理由以外には進路変更という理由が挙げられるが、専門職種の養成課程ゆえに進路変更を考えた場合に退学を選択しやすい側面があるため、専門職としてのやりがいや魅力が伝えられるような授業を展開していきたい。
- ・プレースメントテストの実施率 (指標 8) は、100%と目標値に達している。
- ・授業満足度アンケートの実施率 (指標 9) は、97.1%と目標値を上回っている。
- ・授業満足率 (指標 10) は、73.5%と事業当初 (64.3%) から約 10%の満足率の上昇が認められた。教育支援・教学 IR 委員会との連携を強化し、詳細な分析をもとに毎年授業改善に取り組んできたが、目標値に達するように科目毎の授業評価アンケートの分析と併せて、評価の低い教員への対応等ティーチング・ポートフォリオの活用を含めてさらなる改善を図ってきたい。
- ・学修行動調査 (大学コンソーシアムの IR 学生調査に準拠) の実施率 (指標 11) は、97.1%と、事業当初 (97.6%) からの高い実施率を維持している。授業満足度についての設問 (指標 9) やアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間の設問 (指標 6) は学修行動調査の中で実施しているが、科目毎の授業評価アンケートや授業外学修時間 (指標 13) の調査との関係も含めて、今後は設問内容の検討を図ることで学生の意識や行動を的確に捉えていきたい。
- ・学修到達度調査 (PROGテスト, 株式会社リアセック社) の実施率 (指標 12) は、97.2%と事業当初 (36.6%) から約 3.8 倍の上昇であった。PROGテストの問題点を含め、観点等に関する教員研修を学務・FD委員会で開催し、他の主観的評価法 (短大学生調査等) との分析を進めるなど、結果の効果的な活用について検討を進めてきた。
また、コンピテンシー・リテラシーの低値が確認された学生には、助言教員が個別に面談を行い、能力の修得につながるアドバイスを行なうなど、モチベーション向上のための学修支援体制の充実を図った。
- 医療・福祉系の専門職に必要な汎用的能力については、ディプロマ・ポリシーの可視化を目的にコモンルーブリックの作成を終え、令和 2 年度から試行予定となっているので、効果の検証を行いながら、本学独自のツールを開発していきたい。
- ・学生の授業外学修時間 (1 週間あたり) (指標 13) は、令和元年度 29.92 時間と目標値の 2 倍を超える高い水準であった。シラバスへの予習・復習内容の具体的な明示やアシスタント・ティーチャーを活用した課外学修支援システムが円滑に遂行された。
今後は、指標 6 のアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間についても、学生が取り組みやすい方法を工夫・提示していきたい。
- ・学生の主な就職先への調査 (指標 14) については、毎年度実施している。回収率を上げることが課題となっているが、令和元年度からインターンシップ先企業の開拓を含めて、意見交換の場の設定や就職ガイダンスの開催を行っているので、こうした取組を活用して回収率の上昇につなげたい。